**吉田壽記念三重医学研究振興会賞（臨床医学部門）**

 氏名（年齢） **前沢 忠志**（41歳）

 所属・職名 三重大学医学部附属病院 高度生殖医療センター・助教

○ 受賞の感想と今後の抱負

　今回、このような賞に選ばれたことは、大変光栄に思います。これまで、若年がん患者に対する妊孕性温存療法を三重県で普及するべく様々な活動を行ってきましたが、その活動が認められたことは非常にうれしく思います。今回の結果に満足することなく、今後さらに三重県内に妊孕性温存を広め、また県を超えてのネットワークを構築し、東海圏全体でのがん・生殖医療を充実させていきたいと思います。

○ 受賞テーマ

「三重県において若年がん患者の妊孕性温存療法を開始し、県下全域に広めたこと及び愛知県等の他県の患者の妊孕性温存療法も受け入れ可能としたこと等において貢献」

○ 臨床医学（診療）分野に於いて成し遂げた顕著な業績

業績は大きく2つあり、1つ目は「三重県内におけるがん・生殖医療の組織化」、2つ目は「がん・生殖医療の教育・啓発活動」である。

○ 業績の概要と将来展望

近年のがん治療の進歩により、がん患者の生存率は飛躍的に改善しており、多くのがんサバイバーがいる。しかし、化学療法や放射線治療といったがん治療は、精巣や卵巣に与える影響は大きく、がん治療後に子供が望めなくなる方が数多くいる。しかし、近年は生殖医療の技術を応用し、がん治療前に精子や卵子、卵巣組織を凍結保存し、将来に妊娠できる可能性を残す妊孕性温存療法が広く実施されるようになっている。特に2021年4月より国より妊孕性温存療法に対する助成金が出るようになり、本分野における国の後押しがみられ、今後益々広まっていく医療である。三重大学では、2017年よりがん患者に対する卵子・胚凍結、卵巣組織凍結を開始した。妊孕性温存療法は、がん治療医や患者が本治療を行っていることを知らなければ実施されない医療であり、妊孕性を失ってからではもう手遅れになる。そのため、三重大学産婦人科が中心となって、三重県中のがん診療病院への啓発活動等様々な取り組みを行ってきた。その結果、妊孕性温存療法を受けられた患者様は徐々に増加し、その実績が認められ、2019年からは三重県より妊孕性温存療法に対して公的助成金が出るようになった。

　三重県は妊孕性温存療法において、全国でも先進的な県となった。しかし、妊孕性温存療法は三重大学産婦人科が単独で取り組んでも発展するものではなく、がん診療を行う診療科、がん診療病院等、三重県下のすべてのがん診療を行う医療機関の協力があればこそ、ここまでの発展がみられた。三重県内での実績があり、他県にも本実績が認められたため、他県では行えない妊孕性温存療法が必要な患者を他県から紹介、搬送されるようになった。申請者は、三重大学医学部附属病院高度生殖医療センター助教として、本業績に関わった。

妊孕性温存療法が広まれば、今後多くの若年がん患者の将来の希望となり、将来の少子化に対する対策ともなることが期待できる。また最新の医療に触れることにより、三重県内の産婦人科を志す若手医師の確保が期待できる。

○ 本業績における実績

2017.10.5　第１回三重がん・生殖医療研究会

2018.3.29　第2回三重がん・生殖医療研究会

2018.7.28　第1回三重がん・生殖医療研究会セミナー

2019.8.3　第2回三重がん・生殖医療セミナー

2019.8.4　第1回三重がん患者の妊孕性を支える多職種研修会

論文名：

1.Tadashi Maezawa, Nao Suzuki, Hiroki Takeuchi, Chikako Kiyotani, Keishiro Amano, Dai Keino, Hiroyuki Okimura, Mitsuru Miyachi, Maki Goto, Seido Takae, Akihito Horie, Junko Takita, Haruhiko Sago, Masahiro Hirayama, Tomoaki Ikeda, Kimikazu Matsumoto. Identifying Issues in Fertility Preservation for Childhood and Adolescent Patients with Cancer at Pediatric Oncology Hospitals in Japan. J Adolesc Young Adult Oncol

. 2021 Jul 22.doi: 10.1089/jayao.2021.0088. Online ahead of print

2.柴原 浩章、前沢 忠志、他. 妊孕性温存のすべて．中外医学社（2021.7.20）

3.鈴木 直 、前沢忠志、他．新版 卵巣組織凍結・移植．医歯薬出版株式会社（2021.8.20）

4. 前沢 忠志, 武内 大輝, 阪本 美登, 寺田 堅斗, 赤阪 未来, 池田 智明. 当院のがん患者に対する卵巣組織凍結保存. 日本がん・生殖医療学会誌 (2433-7528)3巻1号 Page48-51(2020.01)

5.鈴木 直、森重健一郎、高井 泰、古井 辰郎、前沢忠志、他．新版 がん・生殖医療 妊孕性温存の診療．医歯薬出版株式会社（2020.4.25）

6.大須賀 穣、前沢 忠志、他．がん患者の妊孕性温存のための診療マニュアル．金原出版株式会社（2019.5.30）

7.前沢 忠志, 池田 智明. 【エキスパートに聞く　合併症妊娠のすべて-妊娠前からのトータルケア】その他の悪性腫瘍. 産科と婦人科 (0386-9792)85巻5号 Page566-571(2018.05）

8.大須賀 穣、鈴木 直、前沢忠志、他．がん・生殖医療ハンドブック．メディカ出版（2017.11.10）

学会発表：

1.三重県におけるがん・生殖医療の取り組みと課題．シンポジウム　第11回日本がん・生殖医療学会　2021年2月12日-2月25日

2.がん・生殖医療と内視鏡下手術のPros and Cons　当院での小児がん患者の卵巣組織凍結保存　シンポジウム　第60回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会　2020年12月14日－2021年1月5日

3.当院での卵巣組織凍結保存の実際．第64回日本生殖医学会学術講演会　2019年11月7日ｰ8日

4.三重大学病院における生殖医療の開始から三重県がん生殖医療ネットワーク構築へ　第9回日本がん・生殖医療学会　2019年2月9日～10日

5.若年がん患者に対する当院でのランダムスタート法による卵巣刺激　第70回日本産科婦人科学会学術講演会　2018年5月10日－13日

6.当院でのがん患者に対するランダムスタート法による卵巣刺激　第63回日本生殖医学会学術講演会　2018年9月6日ｰ7日

○ 略歴

 学歴は卒業から記入ください。

平成17年3月　浜松医科大学医学部医学科卒業

平成17年4月～平成19年3月　済生会松阪総合病院勤務

平成19年4月～平成20年3月　三重大学医学部附属病院勤務

平成20年4月～平成22年3月　済生会松阪総合病院勤務

平成22年4月～平成23年9月　公立紀南病院勤務

平成23年4月　三重大学医学部大学院医学系研究科入学

平成23年10月～平成25年3月　IVFなんばクリニック勤務

平成25年4月～平成26年3月　IVF大阪クリニック勤務

平成26年4月～現在　三重大学医学部附属病院勤務

平成27年3月　三重大学医学部大学院医学系研究科卒業

○ 専門分野

生殖医療

○ 医学博士、専門医資格など

**日本産科婦人科学会専門医・指導医**

日本生殖医学会専門医・指導医

日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医